

季節と行事について学ぼう

目標：季節があること、季節毎に行事があることを理解する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 日本語に慣れるために、仮名の歌を歌う。 ① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。 ② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。	★平仮名表
10	2 日付と曜日の復習をする。 ① カレンダーを読む。 ・(今日)「〇月〇日〇曜日」を読む。 ・「昨日／明日」でも練習する。 ② 曜日の漢字を読む。	★カレンダー ・ 80 参照
30	3 季節と行事について理解する。 ① ハロウィン、クリスマス、フェスタジュニーナなど母国の行事について知っているか、その行事は何月にあるかを答える。 ② 日本の春、夏、秋、冬について、理解する。 ・季節の絵を見ながら、どの季節の行事か予想する。 (例)入学式、こいのぼり、梅雨、すいか、プール、芋ほり、運動会、もみじ、雪だるま、お正月など ③ カレンダーの正しい時季(月)に絵を貼る。 ④ 絵を貼ったカレンダーで春・夏・秋・冬を分ける。 ⑤ 「春が来た」を歌う。	★児童生徒の国のお正月の様子分かる資料 ★季節が分かる絵 ・児童生徒が行事を知らないことも多いので、以下の資料を読ませるのもよい。 ★たのしい1ねんせい【愛知県】P.11「がっこうぎょうじ」 ★小学校入学への手引～1年生になるまえに～【愛知県】P.6 小学校の1年 ・春夏秋冬は、絵や写真でイメージが持てればよい。 ★「春が来た」歌詞

凡例：・留意点 ★教材

学校行事について学ぼう 1

目標：いろいろな学校行事の名前を理解し、表現する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 日本語の歌を歌う。 ○「春が来た」を歌う。	★「春が来た」歌詞
30	2 学校行事について理解する。 ① 学習発表会の絵を見せながら、どんな発表の練習をしたかなど、教師の質問に答える。 ② 教師が示す学校行事の絵や写真を見ながら、知っていることを発表する。 (例)入学式、運動会、授業参観、プール、懇談会、校外学習、学習発表会、卒業式 ③ 絵カードを見て行事の名前を言う。 ④ 平仮名カードを読む。 ⑤ 絵カードと平仮名カードで、学校行事の名前を練習する。 (例)絵と文字を線で結んだり、絵カードを見て文字カードを貼ったりする。	★学校行事の絵や写真 ★学校行事の平仮名カード ・児童生徒が経験したことのある学校行事を選んで話をする。 ・学校行事の名前は長いので、繰り返し練習する。 ・知らない学校行事については以下の資料を読むか、「保護者会は、おうちの人と先生が話します」など、説明をする。 ★たのしい1年生【愛知県】P.11「がっこうぎょうじ」 ★～1年生になるまえに～小学校入学への手引【愛知県】P.6 小学校の1年
10	3 音読の練習をする。 ① 教師の音読を聞く。 ② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。 ③ 一人ずつ読む。	★音読資料 ・ 42 参考

凡例：・留意点 ★教材

学校行事について学ぼう 2

目標：何月に学校行事があるかを理解し、表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 日本語の歌を歌う。 ① 「春が来た」を歌う。 ② 「海」を歌う。	・季節を感じる歌を歌わせる。 ★「春が来た」歌詞 ★「海」歌詞
25	2 「〇月に〇〇（学校行事）があります」という表現を理解して、練習する。 ① 前時に学習した学校行事の絵を見て、行事名を言う。 ③ 学校行事の絵を見て、「何月にあるか」の質問に答える。 （例）「運動会は、何月にある？」 →「5月（です）」 ④ 教師が「〇月に〇〇（学校行事）があります」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・いろいろな学校行事で練習をする。 ⑤ 「〇月に〇〇（学校行事）があります」とノートに書く。	★学校行事の絵カード ・ 82 参照 ・児童生徒の回答後、教師は絵カードの上に〇月と書いておく。 ・児童生徒の学習状況で書く量を変える。
15	3 長期休業等、休みについて学ぶ。 ① 夏休み、冬休み、代休の絵カードを見ながら、休みの言い方を理解する。 ・絵を見ながら、「夏休み、冬休み、代休」と言う練習をする。 ② カレンダーに夏休み、冬休みの期間を書き込む。 ③ 教師がカレンダーを見ながら、「〇月〇日から〇月〇日まで、夏休み／冬休みです」と言うのを聞いて、繰り返す。 ④ ノートに「〇月〇日から〇月〇日まで、なつやすみです」と書く。	★カレンダー ・線を引く程度でよい。

凡例：・留意点 ★教材

年中行事について学ぼう

目標：年中行事が何月にあるか理解し、質問に答えることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	1 日本語の歌を歌う。 ① 「春が来た」の替え歌を歌う。 ② 「海」を歌う。	★「春が来た」替え歌の歌詞 ・替え歌の説明をする。 ★「海」歌詞
20	2 学校行事のカレンダーに、年中行事を追加して質問に答える。 ① カレンダーに学校行事のイラストを貼り、復習をする。 ・イラストを見て、行事名を言う。 「入学式、運動会、授業参観……」 ② 「こどもの日」「ひなまつり」「いもほり」「クリスマス」「お正月」をカレンダーに追加する。 ・絵カードを見て、「子供が大きくなるのを願う日です」など、教師の説明を聴く。 ・児童生徒は、絵カードと文字カードで行事名を覚える。 ③ カレンダーに②の行事の絵を貼る。 ④ カレンダーを見ながら質問に答える。 ・「〇月に何がありますか」 →「〇月に〇〇があります」	★カレンダー ・ 82 参照 ★行事の絵カード、文字カード ・シールにしておくのもよい。
15	3 練習プリントに書く。 ① 本時の学習確認のために、練習プリントに取り組む。 (例)「〇〇に うんどうかいが あります」 (例)「〇〇に がくしゅうはっぴょうかいが あります」 (例)「4がつに〇〇 が あります」 (例)「5がつに〇〇 が あります」 ② 書き込んだプリントを読む。	★練習プリント ・他に、そつぎょうしきこうがいがかくしゅう、じゅぎょうさんかん等

凡例：・留意点 ★教材

行事の表を作ろう 1

目標：何月に学校行事があるかを理解し、言うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	1 日本語の歌を歌う。 ① 「春が来た」の替え歌を歌う。 ② 「海」を歌う。	★「春が来た」替え歌の歌詞 ★「海」歌詞
15	2 行事名の復習をする。 ○ 絵カードを見て、行事の名前を言う。 ・季節 ・学校行事 ・年中行事 (例) 文字カードと絵カードを線で結ぶ。 絵カードに文字カードを合わせる。	★絵カード ★文字カード ・ 82 参照 ・ 84 参照 ・黒板やホワイトボード上で、線で結ばせる。
20	3 行事の表を作る。 ① 下書き用の紙に、行事名を書き入れる。 ② 模造紙で行事の大きい表を作る。 ・それぞれの月に学校行事や年中行事の絵と、その名前を書いた紙を貼る。	★模造紙 ・児童生徒には学校行事の絵を中心に描かせるなど、人数や時間に配慮する。

凡例：・留意点 ★教材

行事の表を作ろう 2

目標：表を使って説明をする。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	1 行事の表を作る（前時の続き）。 ○ 模造紙を使って行事の大きい表を作る。 ・それぞれの月に、学校行事の絵とその名前を書いた紙を貼る。	★模造紙（85参照） ・出来上がった表は掲示する。
15	2 表の説明をする。 ① 「○月に○○があります」 ② 「○月（○日）から○月（○日）まで夏休み／冬休み／春休みです」などの説明をする。	・自信をもって発表ができるように、児童生徒の習熟度に合わせて、前もって説明の担当を決めるなどの工夫をする。
10	3 音読練習をする。 ① 教師が読むのを聴く。 ② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。 ③ 一人ずつ読む。	★音読資料（42参照）

凡例：・留意点 ★教材

校内の場所を表す言葉を知ろう 1

目標：学校の教室や建物の名前を覚える。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「あたま、かた、ひざぽんの歌」を歌う。</p>	<p>★平仮名表</p>
10	<p>2 学校の場所の名前を答える。</p> <p>○ 教師の質問に答える。 (例)「ここはどこ？」 →「こくさいがっきゅう」 「あそこは？」 (隣の教室などを指して) →「としよしつ」</p>	<p>★学校配置図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室や建物の名前は、学校の中で統一した言い方を決めておく。 ・児童生徒がよく利用する教室や場所を中心にいくつか質問する。
30	<p>3 学校のいろいろな場所の名前を理解し、表現する。</p> <p>① 写真を見て、場所の名前を言う。 ・運動場、校舎、児童クラブ、体育館 校門、花壇など外の場所の名前を中心に覚える。</p> <p>② 文字カードを読む。(数回)</p> <p>③ 写真に文字カードを合わせる。</p> <p>④ ルールを確認してから、カルタをする。 ・文字カードの読み札を聞いて、写真を取り札にして取る。 ・児童生徒が読み札を読む。 ・写真を見て、読み札を取る。</p> <p style="text-align: right;">等</p> <p>⑤ 学校の配置図をみんなで見る。図に場所の名前を書き入れる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★場所の絵カード、文字カード</p> <p>実際の写真を撮り、絵カードにするとよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・カルタは、手は頭などルールを決めてからゲームをするとよい。 ・日本語の力の差が大きい場合は、一人1セットにして、全部取らせる方法もある。

凡例：・留意点 ★教材

校内の場所を表す言葉を知ろう2

目標：学校の教室の場所と名前を覚える。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	1 特別教室等の名前を理解する。 ① 写真を見て、教師が名前を言うのを聞く。 (例)国際学級、教室、特活室、書写教室、職員室、校長室、家庭科室、図書室 ② 教師の後について文字カードを読む。 ③ 写真に文字カードを合わせる。	・教室や建物の名前は学校の中で統一した言い方を決めておく。 ・何度も声に出して、発話練習をする。
20	2 カルタ遊びで練習する。 ① 教師が文字カードの読み札を読んで、児童生徒が写真カードを取る。 ② 児童生徒が読み札を読む。他の児童生徒が写真カードを取る。 ③ 教師が写真カードを見せて、児童生徒が読み札を取る。 等	・学習の定着を図るため、カードの読み手を変えるなど、形式を変えて複数回行う。
10	3 教室の場所を図で確認し、図に書く。 ① 校舎の1階の配置図(平面図)を見る。 ② 教室の名前を記入する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★学校配置図(平面図等)</p> <p>・配置図や平面図に不慣れな児童生徒もいることに配慮する。</p> </div>

凡例：・留意点 ★教材

校内の場所を表す言葉を知ろう 3

目標：教室の場所と名前を理解することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「あたま、かた、ひざぼんの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
20	<p>2 学校のいろいろな場所の名前を復習する。</p> <p>① 校内のいろいろな場所や教室の写真を見て名前を言う。</p> <p>② 覚えていない場所の名前を中心に、発音と文字の練習をする。</p> <p>③ 教師が写真を見せて、場所の名前を言うのを聞き取って、ノートに書く。</p>	<p>・ 87 88 参照</p> <p>★写真、文字カード</p> <p>・ 前時までのカルタ遊びを用い、いろいろな出題方法で文字を読む練習をするのもよい。</p>
20	<p>3 学校配置図（平面図）を見て場所を言う。</p> <p>① 学校の配置図に写真を貼る。</p> <p>② 1階、2階、3階など階数の言い方を、教師の後に続けて、繰り返す。</p> <p>③ 階数の質問に答える。</p> <p>・ 「ここは何階？」 → 「○階（です）」</p> <p>④ 何階にあるか言い方を知り、練習する。</p> <p>・ 「1階に○○があります」</p> <p>・ 「2階に○○があります」</p>	<p>★学校配置図（平面図）</p> <p>・ 配置図や平面図に不慣れな児童生徒もいることにも配慮する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

学校探検に行こう 1

目標：学校探検に行くことを知り、意欲を持つ。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	1 学校探検について話を聞く。 ・「〇月〇日〇曜日、校長室へ行きます」 ・「校長先生に自己紹介をします」	・学校探検に行く際に、校長先生に自己紹介をすることを伝える。 ★カレンダー ★校長室の写真 ★校長先生の写真 ★自己紹介シート
20	2 学校探検のときの注意を理解する。 ① やってはいけないことを絵カードで確認する。 (例) ・大きい声で話します ・走ります ・一人でどこかへ行きます ・勉強をしている教室へ入ります ・覗きます ・先生に言わず、トイレへ行きます ・たたきます ・怒ります 等 ② どうしたらいいか考える。 (例) ・大きい声で話します→話しません (例) ・走ります→走りません 等	★絵カード（やってはいけないこと） ・絵の下に×を描いて「だめです」と言う。 ・児童生徒に実態にふさわしいものを適宜出す。 ・教師がジェスチャーで示す。
15	3 音読練習をする。 ① 教師が読むのを聴く。 ② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。 ③ 一人ずつ読む。	★音読資料 ・ページや役割を決めるなど読む量を加減する。 ・ 42 参照

凡例：・留意点 ★教材

学校探検に行こう2

目標：してはいけないこと、気をつけることを理解する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「あたま、かた、ひざぼんの歌」を歌う。</p>	
20	<p>2 してはいけないことを復習する。</p> <p>① 絵カードを見て教師が言う「してはいけないこと」に「だめ」で答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きい声で話す」→「だめ」 ・「(廊下で) 走る」→「だめ」 ・「一人でどこかへ行く」→「だめ」 等 <p>② 気をつけることを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「並んで歩く。」 ・「静かに歩く。」 <p>③ 児童生徒は気をつけることをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ならんであるく」 ・「しずかにあるく」 	<ul style="list-style-type: none"> ・90参照 ★絵カード（してはいけないこと） ・してはいけないことがあることが伝わればよい。 ・気をつけることは多くせず、二つだけ伝える。 ・低学年の児童は並んで歩く練習をするとよい。
20	<p>3 自己紹介の練習をする。</p> <p>○ 以前作成した自己紹介のシートを読む練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習して覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★自己紹介シート (72参照)

凡例：・留意点 ★教材

学校探検に行こう3

目標：学校探検を通して、教室の名前と場所を理解する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	1 学校探検に行く。 ① 廊下に並ぶ。 ② 静かに歩く。	・事前に校長先生や職員に協力を依頼しておく。
15	2 教室の名前と場所を確認する。 ○ 教師から簡単な場所の説明を聴き、真似をして言う。 (例)・「ここが保健室」「けがをしたら来ます」 ・「ここが図書室」「本を読むときに来ます」 等	・保健室や職員室、校長室に入るときは、「失礼します」「失礼しました」と挨拶をするようにあらかじめ指導しておく。 ・何をやる教室か簡単に説明する。
20	3 校長先生に自己紹介をする。 ① 校長先生の前で一人ずつ自己紹介をする。 ② 挨拶をして、静かに帰る。	・順番を守る ★自己紹介シート (72参照)

凡例：・留意点 ★教材

学校探検に行こう 4

目標：学校探検の振り返りをする。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 学校探検を振り返り、質問に答える。</p> <p>① 学校探検の行き先を思い出す。 ・「昨日どこへ行きましたか」 →「校長室」 等 ・教師が「校長室へ行きました」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>② 学校探検に誰と行ったか思い出す。 ・「誰と行きましたか」 →「〇〇さん、〇〇さん」 ・教師が「〇〇さん、〇〇さんへ行きました」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>③ 学校探検で何をしましたか振り返る。 ・「何をしましたか」 →「自己紹介」 ・教師が「自己紹介をしました」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>④ 自己紹介を振り返る。 ・「自己紹介上手にできましたか」 →「できた」「できなかった」「まあまあ」 等 ・教師が「上手にできました」と言うのを聞いて、繰り返して言う。</p>	<p>★学校探検の写真</p> <p>★自己紹介シート (72参照)</p> <p>・出てこないようなら写真を見せて思い出させる。</p> <p>・自己紹介シートを見せる。</p> <p>・繰り返して言ったことを板書しておく。</p> <p>・「話す」「校長先生」などの言葉が出てくればよい。</p>
25	<p>2 板書をノートに写す。</p> <p>① 教師は1の質問を繰り返し、黒板を見ながら答える。</p> <p>② 板書を写して書く。</p> <p>③ 書いたものを読んで発表する。</p>	<p>・繰り返して言った言葉だけが、黒板に板書されている。</p> <p>・板書以外のことが書きたい児童生徒には、日本語の力に合わせて支援する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

学校探検に行こう5

目標：学校探検を振り返り、教室の名前と場所を理解する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 してはいけないことを振り返る。</p> <p>① してはいけないことは何だったのか、守れたのか、絵カードを見て答える。 (例)「大きい声で話しません」 「できた?できなかった?」 →「できた/できなかった」</p> <p>② 「できた/できなかった」のシートに記入する。</p>	<p>★絵カード(してはいけないこと)(90参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードは×の下に貼る。 ・一つずつ確認する。 ・できたことをほめる。 <p>★振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたことをノートに書かせてもよい。
15	<p>2 学校の場所の名前を復習する。</p> <p>① 場所や教室の写真を見て、名前を言う。</p> <p>② 場所や教室の名前を黒板やノートに書く。</p>	<p>★場所の絵カード、文字カード (87 88参照)</p>
10	<p>3 音読練習をする。</p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。</p> <p>③ 一人ずつ読む。</p>	<p>★音読資料(42参照)</p>

凡例：・留意点 ★教材

動詞を使おう

目標：動詞を使った言葉を理解し、動作で表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p>	<p>★平仮名表</p>
10	<p>2 教師の指示を聞いて、動作で表現する。</p> <p>① 教室の指示を聞いて、そのジェスチャーをする。 (例)「見ます」「聞きます」「言います」 等</p> <p>② 母語だと何というか話す。</p> <p>③ 動きを表す言葉(動詞)の勉強を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の動詞を使って指示をする。 ・本時以降の動詞、形容詞の学習を丁寧な敬体(です・ます調)にするのか、常体(だ・である調)にするのか、検討しておく。 ・1、63参照 ・母語で言えない児童生徒もいるので、辞書や『指さし会話帳』(情報出版局)など単語が分かるものがあるとよい。携帯のアプリも活用できる。
10	<p>3 絵カードや文字カードを見て、ジェスチャーゲームをする。</p> <p>① 教師が絵を見せた指示を、動作で表現する。 (例)「読みます」「食べます」「飲みます」「歩きます」「書きます」「立ちます」「座ります」</p> <p>② 教師が見せた文字カードの指示を、動作で表現する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★絵カード 基本的な動作を表した絵が望ましい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★文字カード 絵カードに対応したもの。</p> </div>
20	<p>4 動作を表す絵カードを作り、練習する。</p> <p>① 絵カードを見て、何の動作の絵か答える。母語が分かる子は母語でも言う。</p> <p>② 好きな絵カードと文字カードを作る。</p> <p>③ 児童生徒が作った絵カードと文字カードを合わせる。</p> <p>④ 絵を見て動詞を言う。</p> <p>⑤ 絵を見て動詞を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年以上の児童生徒には敬体「～ます。」は「大人と話すときの言い方、書くときにも使う」という説明をしてもよい。

凡例：・留意点 ★教材

漢字の学習を始めよう

目標：漢字の成り立ちについて理解することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	<p>1 漢字に成り立ちについて理解する。</p> <p>① 平仮名や片仮名とは異なる文字として、漢字があることを理解する。</p> <p>② 象形文字、漢字を見て、絵からできた漢字があることを確認する。</p> <p>③ 漢字を紹介する文を読む。</p>	<p>・国語の教科書で、漢字の学習を始める教材を参考にする。</p> <p>★漢字カルタ</p> <p>★イラスト（象形文字の成り立ちを示す）</p>
25	<p>2 曜日の漢字の成り立ちについて理解する。</p> <p>① 曜日の漢字を復習する。 「日、月、火、水、木、金、土」 「日ようび」「月ようび」……と読む。</p> <p>② 101漢字カルタの中から、曜日の漢字を取り出して見る。</p> <p>③ 漢字カードを見ながら、白いカードに曜日の漢字の絵と象形文字を書く。</p> <p>④ 曜日の漢字を訓読みで読む。 「ひ、つき、ひ、みず……」</p> <p>⑤ 曜日の漢字の絵、象形文字、漢字のカードを合わせる。</p>	<p>○漢字に意味があることを伝える。</p> <p>・80参照</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★記入用カード 白いものが望ましい。</p> </div>
10	<p>3 漢字カードを使ったゲームをする。</p> <p>○ 曜日の漢字の絵、象形文字、漢字のカードで神経衰弱をする。</p>	

凡例：・留意点 ★教材

「を」を使って文を作ろう

目標：助詞「を」でつないだ文を読んだり、書いたりすることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
10	<p>2 動詞を復習する。</p> <p>① 絵を見て動詞を言う。 (例)「読みます」「食べます」「飲みます」「歩きます」「書きます」「立ちます」「座ります」等</p> <p>② 文字を見て絵を探す。</p>	<p>★絵カード (95参照)</p> <p>★文字カード (95参照)</p>
15	<p>3 助詞の「を」について理解する。</p> <p>① 食べ物の絵を何枚か見て、食べたいものを選ぶ。 ・「何を食べますか？」 (例)パン、ごはん、りんご、ラーメン等</p> <p>② くっつけると文になるという説明を聴き、板書を読む。 ・板書 りんご を たべます。</p> <p>③ 飲み物の絵でも同様に練習する。 (例)みず、ジュース、ぎゅうにゅう等 ・板書 みず を のみます。</p>	<p>★食べ物の絵カード</p> <p>★飲み物の絵カード</p> <p>・食べない、飲まないという児童生徒がいたら、「たべません」「のみません」を出して、変わった部分はどこか考えさせる。</p>
15	<p>4 助詞「を」でつないだ文を読んだり、書いたりして練習する。 (例)「なにをたべますか？」 →「さかなをたべます」 「りんごをたべます」 「ラーメンをたべます」</p>	

凡例：・留意点 ★教材

漢字を覚えよう 1

目標：指事文字の漢字を理解し、表現することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	<p>1 指事文字の漢字について理解する。</p> <p>○ 象形文字とは別に、記号や印から成り立った漢字があることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書で、指事文字の漢字について学習する教材を参考にする。 ・例として、上、下は印からできた漢字だということ説明する。
20	<p>2 漢字の意味や読み方、書き方を理解する。</p> <p>① 漢字カルタから指事文字を見る。 (例)上、下、中、本、玉</p> <p>② 書き順の練習をする。</p> <p>③ 白いカードに絵、象形文字、漢字を書く。</p> <p>④ 漢字を読む。 ・(訓読みで)うえ、した、なか、もと、たま</p> <p>⑤ 児童生徒が書いた絵、象形文字、漢字のカードを合わせる。</p>	<p>★白いカード</p> <p>★漢字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上から下、左から右、まん中を貫く線といった書き順の基本を教える。
15	<p>3 漢字の練習をする。</p> <p>① 漢字カードを並べ、教師が読んだ漢字カードを取る。</p> <p>② 漢字カルタの読み札と取り札で神経衰弱をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が漢字を読む以外に、他の児童生徒に読ませてもよい。

凡例：・留意点 ★教材

質問しよう、答えよう

目標：動詞を使って、質問したり答えたりすることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
20	<p>2 動詞を使って質問したり、答えたりする言い方を理解する。</p> <p>① 「動詞を覚えよう2」の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べ物、飲み物の絵カードを見て「～を食べます」「～を飲みます」と文で言う。 <p>② 「～ません」という否定の言い方を理解する。</p> <p>(例)「ピーマンを食べますか？」</p> <p>○ 「食べます」</p> <p>× 「食べません」</p> <p>③ 教師の質問に答える。</p> <p>(例)「トマトを食べますか？」</p> <p>→「食べます」</p> <p>「食べません」</p>	<p>★食べ物の絵カード</p> <p>★飲み物の絵カード</p> <p>(97参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ピーマンなど児童生徒があまり好きそうではないもの(本物)を見せて、「食べますか？」と聞き、答え方を板書する。 自分の意見を言わせればよい。
20	<p>3 動詞を使って、質問したり答えたりする練習をする。</p> <p>① 食べ物、飲み物の絵カードを使って練習する。</p> <p>「○○を～ますか？」</p> <p>→「はい、～ます」「いいえ、～ません」</p> <p>② お互いに質問したり、答えたりする。</p> <p>③ イラストを見て、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> イラストを見て発話練習をする。 イラストを見て文を書く。 <p>(例)「りんごを食べますか？」</p> <p>「はい、食べます。」</p>	

凡例：・留意点 ★教材

漢字を覚えよう2

目標：複数の読み方のある漢字を理解し、表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 漢字には複数の読み方があることを理解する。</p> <p>① 曜日の漢字の復習をする。 ・日（ひ）・月（つき）……土（つち）を読む。</p> <p>② 漢字には2つ、3つの読み方があることを理解する。 (例) 日には「ひ」、「にち」、「び」などの読み方がある 等</p> <p>③ 漢字カルタで漢数字を一から十まで見る。神経衰弱のゲームをする。</p>	<p>★漢字カルタ (96参照)</p> <p>・日よう日を例に挙げ、「日」という漢字には「ひ」、「にち」、「び」の読み方があることを説明する。<u>金曜日</u>と<u>お金</u>の読み方の違いを紹介してもよい。</p>
15	<p>2 読み替えの漢字を読む。</p> <p>① 読み替えの漢字が使用されている詩や文を読む。 (例) お日さま にっこり 日よう日 きれいな 月だね 月よう日 たき火で やきいも 火よう日だ おいしい 水 のむ 水よう日 木のぼり ときどき 木よう日 お金で かいもの 金よう日 土に たね まく 土よう日だ</p> <p>② 日にちの歌を歌う。 チューリップのリズムで「つたち、ふつか、みっか、よっか、いつか……とおか、今日は何日〇〇日だよ。」</p>	<p>・国語の教科書で、読み替えの漢字について学習する教材を参考にする。</p> <p>・漢字にはいくつか読み方があること、送り仮名があることを教える。</p>
10	<p>3 書き順の練習をする。</p> <p>○ 曜日の漢字の書き順の練習をする。</p>	

凡例：・留意点 ★教材

「何」を使って質問しよう

目標：「何」を使って質問し、2文節で答えることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
10	<p>2 「動詞を覚えよう3」の復習として、質問に答える。</p> <p>① 「～を食べますか」 →「はい/いいえ、(食べます)」</p> <p>② 「～を飲みますか」 →「はい/いいえ、(飲みます)」</p>	<p>・99参照</p> <p>・児童生徒みんなで答えさせたり、一人ずつ答えさせたりする。</p>
10	<p>3 「何を～ますか」の質問の形を理解する。</p> <p>○ 用意されたいくつかの食べ物(料理)の絵を使い、対話のロールプレイをする。 (例)「ラーメンを食べますか」「いいえ」 「ハンバーグを食べますか」「いいえ」 「スパゲッティを食べますか」「いいえ」 「何を食べますか」「○○を食べます」</p>	★食べ物(料理)の絵 (メニューでもよい)
20	<p>4 対話の形で質問と答の練習をする。</p> <p>① 「何」を使った質問に答える。 「何を食べますか」 →「○○を食べます」</p> <p>② 飲み物も使って、同様に練習する。</p> <p>③ 「何」を使って、質問をする。 ・「何を食べますか」</p> <p>④ イラストを見て、練習する。 ・イラストを見て発話練習をする。 ・イラストを見て会話を書く。 (例)「なにをたべますか」 「カレーをたべます」</p>	<p>・食べ物の絵をいくつか貼って行う。</p> <p>★飲み物の絵</p> <p>・教師や他の児童生徒が答える。</p> <p>★イラスト(飲食店で店員が訪ねている場面)</p>

凡例：・留意点 ★教材

漢字を覚えよう3

目標：漢数字を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「漢字を覚えよう2」の曜日と日にちの復習をする。</p> <p>① 『あたらしいこくご1年生下』P.34、35「ようびと日づけをおぼえよう」を音読する。</p> <p>② 日にちの歌を歌う。 ・チューリップのリズムで「つたち、ふつか、みつか、よつか、いつか……とおか、今日は何日？○○日だよ」</p> <p>③ カレンダーを読み、「何月何日」を言う練習をする。 (例) 3月3日(さんがつみつか) 4月6日(しがつむいか) 等</p>	<p>★国語の教科書 『あたらしいこくご1年下』(東京書籍) 低学年の教科書を使うことで自尊感情を傷つけることのないよう、リライト教材にするなど配慮する。</p> <p>★カレンダー</p>
20	<p>2 漢数字を理解する。</p> <p>① 漢字カルタの数、単位の漢字を見る。 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、万、寸、尺</p> <p>② 101漢字カルタの読み札を読んで、漢字の意味を捉える。</p> <p>③ 101漢字カルタの読み札と取り札で神経衰弱をする。</p>	<p>★101漢字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸、尺は漢字の部首になるので、扱っておく。 ・漢字の意味を説明する。
10	<p>3 漢数字カードを作る。</p> <p>○ 書き順の確認をしながら、一から十、百、千、万の自分の漢字カードを作る。</p>	<p>★無地の色カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の色を読み札と取り札と変えておくと整理しやすい。

凡例：・留意点 ★教材

「は」を使って話そう

目標：助詞「は」を使って対話ができ、文を作ることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
15	<p>2 助詞「は」でつないだ文について学ぶ。</p> <p>① 野菜、草の絵カードを見て、野菜等の名前を教師の真似をして言う。 (例)たまねぎ、キャベツ、にんじん、だいこん 等</p> <p>② 質問に答える。 (例)「うさぎは なにを たべますか」 →「にんじん」 →「うさぎは にんじんを たべます」</p> <p>③ 黒板に書いた文を読む。 (例)「うさぎは にんじんを たべます」</p>	<p>★野菜の絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」が未習である場合は、前の言葉につながる時は「は」と書いて「WA」と読むことを説明する。 ・助詞「は」でつないだ文を、声を合わせて言わせる。
25	<p>3 対話の形式で練習をする。</p> <p>① 動物が何を食べるか答える。 ・牛、馬、山羊、猿の絵カードを見る。 (例)「何を食べますか」 →「牛は〇〇を食べます」</p> <p>② 動物が何を食べるか質問する。 「〇〇は何を食べますか」</p> <p>③ 板書を見ながら、発話練習をする。 ・「〇〇は〇〇を食べます」</p> <p>④ イラストを見て練習する。 ・イラストを見て文を言う。 ・イラストを見て文を書く。 (例)「ねこは さかなを たべます」 「ゴリラは バナナを たべます」</p>	<p>★動物の絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が順に見せる。 ・他の児童生徒が答える。 ・児童生徒の答えを板書する。 ・動植物の名前は、基本仮名書きだが、自然科学等の学術分野では片仮名表記も多い。外来語なら片仮名となる。

凡例：・留意点 ★教材

漢字を覚えよう 4

目標：十や百の位までの漢数字を使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「漢字を覚えよう3」の復習として、曜日と日にちを読む。</p> <p>① 『あたらしいこくご1年生下』P.34、35「ようびと日づけをおぼえよう」を音読する。</p> <p>② 日にちの歌を歌う。 ・チューリップのリズムで「つたち、ふつか、みっか、よっか、いつか……とおか、今日は何日？○○日だよ」</p> <p>③ カレンダーを読み、「何月何日」を言う練習をする。 (例) 3月3日 (さんがつみっか) 4月6日 (しがつむいか) 等</p>	<p>★国語の教科書 『あたらしいこくご1年生下』(東京書籍)</p> <p>★カレンダー</p>
10	<p>2 漢数字を覚えるカード遊びをする。</p> <p>① 漢字カルタの数、単位の漢字で神経衰弱をする。 ・一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、万、寸、尺</p> <p>② 「漢字を覚えよう3」で作った漢字カードを並べ、カルタをする。 ・一人に1セットで ・グループで (例) 教師が「さん」と言ったら「三」のカードを取る。</p>	<p>★漢字カルタ ★漢字カード ・高学年の児童生徒には四 し、よん 七 しち、なな 九 く、きゅう の読み方があることを指導する。</p>
20	<p>3 漢数字カードを並べて、十や百の位までの数を作る練習をする。</p> <p>① 教師が黒板に書いた漢数字を読む。 (例) 「三十八」「百二十九」</p> <p>② 教師が黒板に書いた数字を作る。 (例) ・自分で作った漢数字のカードを机に並べる。 ・教師が「38」と書く。 ・机の上に三十八を並べる。</p> <p>③ 言われた数字をカードで並べる。 ・一人の児童生徒が好きな数字を言い、その数字を机の上に漢字で並べる。</p>	<p>・年齢や既習内容に配慮しながら、練習させる。</p> <p>・順番に出題させる。</p>

凡例：・留意点 ★教材

目的語に続く動詞を使おう

目標：目的語に続く動詞を使い分けることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 絵カードを見ながら、既習動詞を読む復習をする。</p> <p>○ 「見ます」「言います」「聞きます」「読みます」「食べます」「飲みます」「歩きます」「書きます」「立ちます」「座ります」</p>	<p>★動詞絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・95参照 ・動作を付けて、言わせるとよい。
10	<p>2 目的語に続く動詞の文を作る。</p> <p>① 目的語に続く動詞を考える。 水、コーヒー、マンガ、絵、本、DVD、テレビ、映画、アルバムの絵を見て、動詞を考える。</p> <p>② イラストから文を作る。 ・「○○を～ます」と文を言う。 ・「○○を～ます」と文を書く。 (例) 「みずをのみます」「えをかきます」 「ほんをよみます」「テレビをみます」</p>	<p>★飲み物絵カード</p> <p>★見るもの、読むものの絵カード</p>
15	<p>3 「○○を～ますか」の質問に答える練習をする。</p> <p>① 教師の質問に答える。 (例) (水を見せて) 「水を飲みますか」 → 「はい、飲みます」 「いいえ、飲みません」</p> <p>② 目的語(絵カード)を変えて応答練習をする。 (例) (薬を見せて) 「薬をのみますか」</p>	<p>★水、薬、お茶など飲むもの</p>
15	<p>4 「何を～ますか」に答える練習をする。</p> <p>① 教師の質問に、目的語になる部分を選んで答える。 ・「何を飲みますか」→ 「牛乳を飲みます」</p> <p>② 質問と答えの文を書く練習をする。 (例) 「えをかきますか」 「はい、かきます」 「いいえ、かきません」</p>	<p>・水、薬、お茶など飲み物を見せながら質問する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

漢字を覚えよう5

目標：百や千の位までの漢数字を使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「漢字を覚えよう4」の復習として、曜日と日にちを読む。</p> <p>① 『あたらしいこくご1年生下』P.34、35「ようびと日づけをおぼえよう」を音読する。</p> <p>② 日にちの歌を歌う。 ・チューリップのリズムで「ついたり、ふつか、みっか、よっか、いつか……とおか、今日は何日？○○日だよ」</p> <p>③ カレンダーを読み、「何月何日」を言う練習をする。 (例) 3月3日 (さんがつみっか) 4月6日 (しがつむいか) 等</p>	<p>★国語の教科書 『あたらしいこくご1年下』(東京書籍)</p> <p>★カレンダー</p>
15	<p>2 漢数字を覚えるカード遊びをする。</p> <p>① 101漢字カルタの数、単位の漢字で神経衰弱をする。 ・一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、万、寸、尺</p> <p>② 「漢字を覚えよう3」で作った漢字カードを並べ、カルタをする。 ・一人に1セットで ・グループで (例)教師が「さん」と言ったら「三」のカードを取る。</p>	<p>★101漢字カルタ</p> <p>★漢字カード</p>
15	<p>3 漢数字カードを並べて、百や千の位までの数を作る練習をする。</p> <p>① 教師が黒板に書いた漢数字を読む。 (例)「三百八十」「三千三百八十」</p> <p>② 教師が黒板に書いた数字を作る。 (例)・自分で作った漢数字のカードを机に並べる。 ・教師が「250」と書く。 ・机の上に二百五十を並べる。</p> <p>③ 言われた数字をカードで並べる。 ・一人の児童生徒が好きな数字を言い、その数字を机の上に漢字で並べる。</p>	<p>・定着のための練習としてカードゲームをする。</p> <p>・黒板やノートに書く練習も取り入れるとよい。</p> <p>・児童生徒の定着状況によっては、東京外大の漢字教材を宿題として出してもよい。</p> <p>・96参照</p>

凡例：・留意点 ★教材

名詞に「します」が続く文を使おう

目標：「名詞＋を＋します」の文を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	
5	<p>2 「～をします」の文について理解する。</p> <p>① スポーツ等の絵カードを見て、何のスポーツか答える。 (例) バasketボール、サッカー、バレーボール、縄跳び、鉄棒 漢字の勉強、理科の勉強</p> <p>② 「○○をしますか」の質問に答える練習をする。 ・○「<u>します</u>」×「<u>しません</u>」と板書する。 (例) 「○○さん、サッカーをしますか」 →「(サッカーを) <u>します</u> / <u>しません</u>」</p>	<p>★スポーツ絵カード</p> <p>・70参照</p> <p>・勉強をしているカードも混ぜる。</p>
15	<p>3 「～をします」の文を作る練習をする。</p> <p>① 絵と「～をします」を見て、文を作って発話練習をする。 (例) 「サッカーをします」 「ドッジボールをします」</p> <p>② 「○○をしますか」の質問に答える練習をする。 (例) 「サッカーをしますか」 「サッカーをします / しません」</p>	<p>・教師がサッカー、ドッジボール、縄跳びなどの絵を貼って、横に<u>を</u> <u>します</u>と板書する。</p> <p>・板書は分ち書きにする。 (例) 「サッカー を します」</p>
20	<p>4 学校生活について、「します」を使った文で対話をする。</p> <p>① 「学校生活で使う言葉」を練習する。 (例) 勉強、宿題、テスト、部活、そうじ 「勉強をします」「宿題をします」</p> <p>② 教師の「何」を使った質問に答える。 (例) T 「べんきょう、何？」 →S 「算数 / 国語」 →T 「算数、国語、理科、日本語」 「勉強です」「勉強<u>を</u>します」 →S 教師の後に続いて、繰り返す。</p> <p>③ 他の例でも発話練習をする。</p> <p>④ 「部活をしますか、しませんか」等、実際の学校生活について質問したり、答えたりする。</p> <p>⑤ 答えたことをノートに書く。</p>	<p>・①で例示した言葉について質問する。</p> <p>・T：教師、S：児童生徒</p> <p>・本時で言葉を分類する上位概念を理解させたい。 (例) 野球、サッカー、バasketボール →スポーツ →スポーツ<u>を</u>します</p> <p>・スポーツで囲んだ図を示すと分かりやすい。</p>

凡例：・留意点 ★教材

漢字を正しい筆順で書こう

目標：漢字の筆順の基礎を理解する。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 日にちの歌を歌う。</p> <p>② カレンダーを見て、今日は何月何日何曜日か言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップのリズムで歌う。
20	<p>2 「右」「左」の筆順を理解し、書く練習をする。</p> <p>① 教師の提示する「右」、「左」の漢字の筆順と読み方を確認する。</p> <p>② 「右」、「左」を、どこが同じで、どこが違うか話をする。</p> <p>③ 漢字の書き方の基本について理解する。</p> <p>④ 右と左、それぞれの書き始めに注意して練習する。</p> <p>⑤ 漢字（下、水、木、田、目）を筆順に気を付けて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書で、筆順について学習する教材を参考にする。 ・筆順があることを意識させる。 ・「ひつじゅん」と言ったり、「かきじゅん」と言ったりすることを説明する。 ・田、目は未習なので、読み方、意味を指導する。
20	<p>3 他の漢字の読みや筆順を理解し、書く練習をする。</p> <p>① 教師が音読する漢字に、振り仮名をふる。</p> <p>② 下、水、木、田、目が何画の漢字か、書いて確かめる。</p> <p>③ 何画か、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たてせん、よこせん、てん、かくかぎ、という言葉も教えてもよい。 <div data-bbox="1054 1422 1353 1644" data-label="Image"> </div> <p>「かくかぎ」の一例 「十の画ベえ」</p>

凡例：・留意点 ★教材

大小、長短などの形容詞を使おう

目標：反対の意味の形容詞を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
15	<p>2 「大きい／小さい」を体感しながら、復習する。</p> <p>① 大きい靴やスリッパをはいて、質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きい？、小さい？」の質問に、「大きい／小さい」と答える。 <p>② 長短の紐を使って、古雑誌などを縛る体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・届かない長さの紐は「短い」、たくさん余る長さの紐は「長い」と言って切る。 ・紐を見て「ながい」「みじかい」と言う。 	<p>★大きい（小さい）靴やスリッパ</p> <p>・65参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい靴やスリッパでも同様に会話させる。 ・届かない長さにしたたり、長すぎる長さにしたたりしておく。
25	<p>3 反対の意味をもつ形容詞について理解し、練習する。</p> <p>① 反対言葉カードで形容詞について学ぶ。</p> <p>(例)「大きい／小さい」「高い／低い」「長い／短い」「新しい／古い」「速い／遅い」「暑い／寒い」「熱い／冷たい」「軽い／重い」「おいしい／まずい」等</p> <p>② 絵カードを見て、形容詞を言う。練習を2～3回行う。</p> <p>③ イラストを見て、形容詞を書く。</p> <p>(例)「おおきい／ちいさい」「たかい／ひくい」「ながい／みじかい」</p> <p>④ 反対言葉カードで神経衰弱をする。</p>	★反対言葉カード

凡例：・留意点 ★教材

様子を表す漢字を使おう 1

目標：様子を表す形容詞の漢字を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 日にちの歌を歌う</p> <p>② カレンダーを見て、今日は何月何日何曜日か言う。</p>	<p>・チューリップのリズムで歌う。</p>
15	<p>2 形容詞の様子を表す漢字を理解する。</p> <p>① 反対ことば絵カードを見て形容詞を言う。 ・「大きい／小さい」「高い／低い」</p> <p>② 「大きい」「小さい」の漢字を書く練習をする。 ・書き順に注意して書く。</p> <p>③ 漢字カルタから、様子を表す漢字を並べる。 (例)大、小、白、青、多、少、高、長</p> <p>④ 一つずつ漢字を読む。 (例)「おおきい」「ちいさい」「しろい」「あおい」「おおい」「すくない」「たかい」「ながい」</p>	<p>★漢字カルタ</p> <p>★反対ことば絵カード</p> <p>・109参照。</p> <p>・109で学習する形容詞とは異なるが、様子を表す言葉について何となく分かればよい。</p>
25	<p>3 形容詞の様子を表す漢字を書く。</p> <p>① 漢字カード(取り札)を取る。 ・教師が漢字カードの読み札を読むのを聞いて取る。</p> <p>② 読み札と漢字カードで神経衰弱をする。</p> <p>③ 55日目109「反対言葉を覚えよう」で学習した形容詞の文字カードを作る。</p>	<p>★白紙のカード</p> <p>・「大きい／小さい」は漢字で書かせる。</p>

凡例：・留意点 ★教材

形容詞を使って話そう 1

目標：「形容詞＋です／ないです」を理解し、表現することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p> <p>③ 「海」を歌う。</p>	★平仮名表
10	<p>2 「おおきいです」と言う練習をする。</p> <p>① 大きい服を着て、質問に答える。 「おおきいですか」 →「はい、おおきいです」</p> <p>② 会話の板書を読む。 「おおきいですか」 →「<u>はい</u>、<u>おおきいです</u>」</p>	<p>★大きい服（帽子）</p> <p>・「おおきい」でもよいが、大人と話すとき、文で書くときは、「<u>おおきいです</u>」を使うことを説明する。</p>
10	<p>3 質問に答える練習をする。</p> <p>① イラストを見ながら、答えの練習をする。 (例)「おおきいですか」 →「はい、おおきいです」 ・答えの練習をする。</p> <p>② 答えを書く。</p>	<p>★イラスト（服が大きい、丁度よい場面）</p> <p>その他の例 「小さいです」 「長いです」 「短いです」 「高いです」</p>
20	<p>4 「おおきくないです」と言う練習をする。</p> <p>① 丁度よいサイズの服を着て、質問に答える。 (例)「おおきいですか。」 →「いいえ??？」</p> <p>② 否定する場合の言い方を知り、練習する。 (例)「<u>おおきいですか</u>」 →「<u>いいえ</u>、<u>おおきくないです</u>」</p> <p>③ 板書を見ながら、否定の答を言う練習をする。</p> <p>④ イラストを見ながら、否定の答を言う練習をする。</p> <p>⑤ 答を書く。</p>	<p>★丁度よいサイズの服</p> <p>・変わった部分を意識させる。</p> <p>・その他の例 「<u>小さくないです</u>」 「<u>長くないです</u>」 「<u>短くないです</u>」 「<u>高くないです</u>」</p>

凡例：・留意点 ★教材

様子を表す漢字を使おう2

目標：形容詞の漢字を使って、短い文を書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>○ 日にちの歌を歌う。</p>	<p>・挨拶の中で、今日は何月何日何曜日か、カレンダーを見ながら答えさせる。</p> <p>・チューリップのリズムで歌う。</p>
20	<p>2 形容詞の様子を表す漢字を復習する。</p> <p>① 反対ことば絵カードを見て形容詞を言う。</p> <p>・形容詞の復習として、カードを見て言う。</p> <p>② 漢字カルタの中の様子を表す漢字を並べる。</p> <p>・大、小、白、青、多、少、高、長</p> <p>③ 一つずつ漢字を読む。</p> <p>④ 様子を表す漢字カルタを引いて、引いた漢字を使った文を作る。</p> <p>(例)「がっこうは 大きいです」 「ゆきは 白いです」 等</p> <p>・音読する。</p> <p>・文を黒板に書く。</p>	<p>★漢字カルタ</p> <p>★反対ことばカード</p> <p>・109参照。</p> <p>・最初に教師が例文を作る。</p>
20	<p>3 聞き取った文を書く練習をする。</p> <p>① 早口言葉を音読する。</p> <p>(例)赤パジャマ、青パジャマ、黄パジャマ</p> <p>② 教師が音読する例文を、聞き取って書く。</p> <p>(例)「じてん<u>し</u>ゃ」 「<u>き</u>ゅうり」 「いちごを<u>た</u>べました。」 「わたしは、学校へ<u>い</u>きました。」</p>	<p>・何回か練習させる。</p> <p>・児童生徒の国の早口言葉も発表させる。</p> <p>・間違いの例は、以下のとおりである。</p> <p>「じてんしや」 「きうり」 「いちごおたべました。」 「わたしわ、学校えいきました。」</p>

凡例：・留意点 ★教材

形容詞を使って話そう 2

目標：気温などの形容詞を理解し、それらを使って表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p> <p>③ 「海」を歌う。</p>	★平仮名表
15	<p>2 使える形容詞を増やすため、新しい形容詞を理解する。</p> <p>① 絵カードを見て形容詞を言う。 (例)暑い、熱い、重い、寒い、冷たい、軽い</p> <p>② 絵カードを見て形容詞を書く。 (例)あつい、あつい、おもい、さむい、つめたい、かるい</p>	★気温の様子を表す絵カード
25	<p>3 気温など、形容詞を使った質問と答えの練習をする。</p> <p>① イラストを見て、質問と答えの練習をする。 (例)「あついですか」 →「はい、あついです」 「いいえ、あつくないです」</p> <p>② ①で練習した質問と答えが書かれた黒板を読む。 (例)「あつい <u>ですか</u>」 →「<u>はい</u>、あつい <u>です</u>」 →「<u>いいえ</u>、あつく<u>ない</u> <u>です</u>」</p> <p>③ イラストを見て、質問と答えの練習をする。</p> <p>④ 質問と答えを書く。</p> <p>⑤ 日本の夏や冬について、質問に答える。 ・「日本の夏(冬)は、暑いですか/寒いですか」 →「はい、暑いです」 →「いいえ、暑くないです」</p>	<p>★イラスト(気温が暑い、寒い、丁度よい場面)</p> <p>・児童生徒の国の気候についても質問する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

人と体を表す漢字を使おう 1

目標：色や体に関係する漢字を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>○ 日にちの歌を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の中で、今日は何月何日何曜日か、カレンダーを見ながら答えさせる。 ・チューリップのリズムで歌う。
15	<p>2 新出漢字を理解する。</p> <p>① 声に出して日本語に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤パジャマ、青パジャマ、黄パジャマ」を声に出して言う。何回か練習する。 <p>② 青、白、赤の漢字を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青、白、赤の漢字を読む。未習の漢字には読み仮名をふる。 (例)「青い そらを みあげる」 「白い くもが ながれる」 「赤い りんごを かじる」 <p>③ 体に関係のある言葉を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読み、ジェスチャーをする。 (例)「目でみる」「口をあける」「手をたく」「耳をすます」「足でける」 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書で、該当の漢字について学習する教材を参考にする。 <p>★色鉛筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の色を工夫して、赤は赤で書く、青は青で書く、白は白で書くなど目で見て分かるようにさせる。
25	<p>3 人・人体の漢字を理解する。</p> <p>① 漢字カルタから人・人体の漢字を選ぶ。</p> <p>人、子、女、母、父、王、口、耳、手、足、力、目、首、毛、心</p> <p>② 絵、象形文字、漢字を並べる。</p> <p>③ 好きな漢字を選んで、象形文字と漢字のカードを作る。</p> <p>④ 作った漢字カードを読む。</p>	<p>★漢字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量は児童生徒の様子を見て調整する。 <p>★白紙カード</p>

凡例：・留意点 ★教材

形容詞を使って話そう 3

目標：料理や給食に関係する形容詞を理解し、それらを使って表現できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p> <p>③ 「海」を歌う。</p>	<p>★平仮名表</p>
15	<p>2 「おいしいです／おいしくないです」と答える練習をする。</p> <p>① 料理の写真を見て、料理名を答える。 ・「これは何ですか」と尋ねる教師に、料理名を教える。</p> <p>② 質問に答える。 ・「おいしいですか」 →「おいしいです／おいしくないです」</p> <p>③ 食べ物の絵カードを見て、質問に答える。 ・「おいしいですか、おいしくないですか」 →「おいしいです／おいしくないです」 (例)カレーライス、すし、ラーメン、なっとう 等</p>	<p>★食べ物の絵カード ★料理の写真</p> <p>・フェジョン (ブラジル)</p>  <p>・アドボ (フィリピン)</p> 
25	<p>3 給食の献立表を題材に、話す練習をする。</p> <p>① 給食の献立表を見て、今日の献立は何か確認する。 ・教師が「〇〇はおいしいです」と言うのを聞く。 ・自分の意見を言う。</p> <p>② 献立表から「おいしい」と思う料理を三つ選ぶ。「〇〇はおいしいです」と言う。</p> <p>③ 「おいしくない」と思う料理を三つ選ぶ。 ・「〇〇はおいしくないです」と言う。 (例) 「にぎかなはおいしくないです」</p> <p>④ 給食で「何がおいしいですか」と聞いたたり、答えたりする練習をする。 (例) 「なにがおいしいですか」 →「やきそばがおいしいです」</p> <p>⑤ ④の会話を文にして書く。</p>	<p>★給食の献立表</p> <p>・献立表だけでイメージできない場合は、写真を撮りためておき、見せるとよい。</p> <p>・おいしくない給食のときはどうするかも聞いてみる。</p> <p>・「何が～」と聞かれた答は「〇〇が」となる。</p> <p>・「～と～と～がおいしいです」「と」を使う文を指導してもよい。(並列助詞)</p>

凡例：・留意点 ★教材

人と体を表す漢字を使おう2

目標：既習の漢字を書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるため、仮名の歌を歌う。</p> <p>○ 日にちの歌を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の中で、今日は何月何日何曜日か、カレンダーを見ながら答えさせる。 ・チューリップのリズムで歌う。
20	<p>2 人・人体の漢字を復習する。</p> <p>① 漢字カルタから人・人体の漢字を選ぶ。 人、子、女、母、父、王、口、耳、手、足、力、目、首、毛、心</p> <p>② 漢字カルタを読む。 (例)ひと、こ、おんな、はは、ちち……</p> <p>③ 読み札を聞いて、漢字カルタを取る。</p> <p>④ 読み札と取り札で神経衰弱をする。</p> <p>⑤ 人体のに関係のある言葉を読み、ジェスチャーをする。 (例)「目でみる」「口をあける」「手をたたく」「耳をすます」「足でける」</p> <p>⑥ ⑤の漢字を書く。</p>	<p>★漢字カルタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分量は調整する。 ・教師が読み札を読む。 ・115参照 前時の復習となる。
20	<p>3 文字語彙の確認テストを受ける。</p> <p>① 既習の言葉（名詞、形容詞、動詞）の絵カードを見て、何の絵か答える。</p> <p>② 教師が提示する既習の漢字カードを読む。</p> <p>③ 教師が言う言葉を聞き取って書く。 ・平仮名 ・片仮名 ・漢字</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに使った絵カードや文字カードからテストをする。 ・児童生徒が、自信がなさそうなものは止めておく。

凡例：・留意点 ★教材

ホットケーキを作ろう 1

目標：ホットケーキを作る順番を理解できる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために、仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p> <p>③ 「海」を歌う。</p>	<p>・59日目 118 「ホットケーキを作ろう2」と、2時間続きが望ましい。</p>
10	<p>2 教師が提示するホットケーキの写真やミックス粉を見て、質問に答える。</p> <p>(例)「これは何ですか」 →「ホットケーキです」 「食べたことがありますか」 →「あります／ありません」 「家で作りますか」 →「作ります／作りません」</p>	<p>★ホットケーキの写真 ★ミックス粉</p> <p>・やりとりの後、○日にホットケーキを作ることを伝える。</p>
30	<p>3 ホットケーキのレシピを作る。</p> <p>① 料理の本やホットケーキミックス等で、必要な材料を確認する。 (例)ミックス粉、卵、牛乳(水)、油、バター、はちみつ</p> <p>② 材料の絵カードを作る。</p> <p>③ 使う道具の名前を確認する。 (例)ボール、泡だて器、フライ返し、フライパン、皿、ナイフ、フォーク</p> <p>④ 道具の絵カードを作る。</p> <p>⑤ 児童生徒が作った絵カードを使って、黒板に手順を説明する。 (例)</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;">  <p style="text-align: center;">たまご</p> </div> <p style="margin-left: 100px;">をわります</p> <p style="margin-left: 100px;">あわだてきでまぜます ミックスを入れます 等</p> <p>⑥ 黒板に書いた手順を読む。</p>	<p>★白紙カード ★調理材料、道具</p> <p>・理解を補助するために、できるだけ実物を用意する。</p> <p>・児童生徒のアレルギーに配慮する。○及び「個別の指導記録」参照。</p> <p>・調理内容については、育てた野菜等を使うことも考え工夫すればよい。</p>

凡例：・留意点 ★教材

ホットケーキを作ろう2

目標：ホットケーキのレシピを書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 ホットケーキのレシピを書く。</p> <p>① 黒板のホットケーキのレシピを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が読むのを聞く。 ・教師と一緒に読む。 ・児童生徒だけで読む。 <p>② 黒板に書かれたホットケーキのレシピをノートに書き写す。</p>	<p>・59日目 117 「ホットケーキを作ろう1」と、2時間続きが望ましい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★前時に作ったレシピ 次時にもこのレシピを使うので、黒板に掲示するとき模造紙に貼るとよい。</p> </div>
10	<p>2 調理のときの注意することについて理解する。</p> <p>① 学校探検の時のやってはいけないことを思い出す。</p> <p>(例) ・大きい声で話します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしります ・一人でどこかへ行きます <p>② 調理の時にやってはいけないことを確認する。</p> <p>(例) ・調理道具で遊びません</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理中、目を離しません ・調理中、ホットプレートに触りません 	<p>・90 91 94 参照</p> <p>★学校探検の絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の計画では、児童生徒のアレルギーに配慮する。 ・調理場所や道具については、事前に相談したり、職員打合せで依頼したりしておく。
15	<p>3 調理実習に必要な物や集まる部屋、時刻を確認して書く。</p> <p>① 次回の持ち物について見本を見て、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン、マスク、三角巾、ハンカチ、自分で書いたレシピ 等 <p>② 集合する部屋と時刻を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何時間目に、どこへ集まる。 <p>③ 児童生徒は連絡帳等を書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★連絡帳 レシピと合わせた学習プリントを用意してもよい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★調理実習の持ち物 前もって連絡するなど、家庭での用意に配慮する。</p> </div> <p>・初期指導だけの持ち物になるので、担任や家庭への確実な連絡に留意する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

ホットケーキを作ろう3

目標：学習した言葉を使いながらホットケーキを作ることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 ホットケーキのレシピを読む。 ① レシピを、声を合わせて読む。 ・レシピを読む声に合わせて、材料と道具を指さしながら確認する。 ・安全面の確認をする。 ② 身支度をして、手を洗う。	・60日目 120 「ホットケーキを作ろう4」と、2時間続きが望ましい。 ★前時まで作成したレシピや児童生徒が描いた絵カード
25	2 ホットケーキを作る。 ① 材料と道具を確認する。 ② ホットケーキを作る。	・在籍学級で給食を食べる場合は、量について配慮する。 ・家庭での経験や文化的な違いも考えられることから、丁寧に方法等指示したい。 ・先にできる片付けはさせておく。
10	3 ホットケーキを食べる。 ・「いただきます」「ごちそうさま」	・教室の給食の時と同じ挨拶をさせる。
5	4 後片付けをする。 ・道具の名前が入った指示を聞いたり、尋ねたりしながら片付ける。	・道具を返す場所に児童生徒が描いた絵カードを貼る方法もある。

凡例：・留意点 ★教材

ホットケーキを作ろう4

目標：ホットケーキを作った感想を話して、作文に書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 ホットケーキを食べた感想を言葉で伝える。</p> <p>① 教師の質問に答える。 (例)「ホットケーキはおいしかったですか」 →「おいしかったです」 「ホットケーキ作りは難しかったですか」 →「難しかったです／難しくなかったです」</p> <p>② 教師が板書した児童生徒の感想を全員で読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・60日目119「ホットケーキを作ろう3」と、2時間続きが望ましい。 ・「おいしかった／おいしくなかった」などは、表現として教える。繰り返し練習する必要はない。 ・児童生徒らしい、多様な表現を認めていく。
10	<p>2 ホットケーキを作っている時の様子を言葉で表現する。</p> <p>① 教師の質問に答える。 (例)「誰と一緒に作りましたか」 →「〇〇さんと先生と作りました」 「たくさん食べましたか」 →「少し食べました」</p> <p>② 教師が板書した児童生徒の言葉を全員で読む。</p>	<p>★調理中の記録写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えられない児童生徒には、いくつかカード等で例を示し、選ばせて読ませる方法もある。
20	<p>3 ホットケーキ作りについて作文を書く。</p> <p>① ホットケーキのレシピを参考に手順を説明する。本時のここまでの学習を参考に、感想を付け加える。 (例)・作文の前半はレシピを書き、後半は感想にする。 ・レシピごとに感想を入れる。</p> <p>② 作文を発表する。</p>	<p>★前時までに作成したレシピや児童生徒が描いた絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「それから」「次に」などのつなげる言葉を指導してもよい。 ・言葉にできない分は、絵での表現も認める。

凡例：・留意点 ★教材